

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症再拡大に伴う緊急事態宣言の再発出やまん延防止等重点措置の実施などが経済活動に多大な影響を及ぼしている中、新型コロナウイルスワクチンの接種も進捗しておりますが、いまだ先行きは不透明であります。

当社海外グループの事業エリアであるアジア経済も、新型コロナウイルス感染症の影響が広がったことにより度重なる外出制限が行われ、厳しい状況となりました。

このような経済状況のもと、当社グループはVISION2027実現のための「変革・挑戦」期と位置づけた中期経営計画をスタートしました。経営基本方針は次のとおりであります。

経営基本方針

- ・ニューノーマルにおけるカテゴリー戦略の進化・挑戦と
ブランド価値向上を徹底できる全社マーケティング革新
- ・インドネシア事業再生のスピーディな完遂と海外事業のビジネスモデル革新
- ・デジタルイノベーションとオープンイノベーションによる新価値創造企業への転換
- ・サステナブル経営を中核とした企業価値向上とお役立ちの進化

当第2四半期連結累計期間の売上高は、29,311百万円（前年同期比12.6%減）となりました。主として、日本の夏場の気温低下や長雨などの天候不順の影響による夏シーズン品の需要の伸び悩みと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて国内外ともに減収となりました。また、日本で「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用したことによる影響をうけております。

営業損失は、646百万円（前年同期は895百万円の営業利益）となりました。これは主として、減収の影響によるものであります。その結果、経常損失は358百万円（前年同期は1,205百万円の経常利益）となったものの、投資有価証券売却益を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は326百万円（前年同期比84.7%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。（売上高は外部顧客への売上高を記載しております。）

日本における売上高は17,722百万円（同18.3%減）となりました。これは主として、夏場の気温低下や長雨などの天候不順で夏シーズン品の需要が伸び悩み、男性事業の「ギャツビー」ブランドが減収したことによるものです。また、収益認識会計基準等を第1四半期連結会計期間の期首から適用したことに伴い、従来、販売費及び一般管理費、営業外費用で計上していた販売報奨金等の費用を売上高から減額したことによる影響であります。利益面においては、主として減収の影響により、営業損失は178百万円（前年同期は1,479百万円の営業利益）となりました。

インドネシアにおける売上高は5,186百万円（前年同期比13.2%減）となりました。これは主として、インドネシア国内において新型コロナウイルス感染症拡大が収まらず、消費が低迷したことによるものであります。利益面においては、主として減収の影響により、営業損失は593百万円（前年同期は719百万円の営業損失）となりました。

海外その他における売上高は6,403百万円（前年同期比8.9%増）となりました。これは主として、一部の国で新型コロナウイルス感染症拡大が収まらなかったものの、中国などで第2四半期会計期間に売上高が回復したことによるものであります。利益面においては、主として売上原価の上昇により、営業利益は125百万円（同7.3%減）となりました。

なお、収益認識会計基準等の影響についての詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、投資有価証券の売却により投資その他の資産が減少したこと等により84,738百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,173百万円減少いたしました。負債合計は、短期借入金が増加したこと等により15,025百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,172百万円減少いたしました。また、純資産合計は、為替換算調整勘定が増加したものの、投資有価証券の売却によりその他有価証券評価差額金が減少したこと等により69,712百万円となり、前連結会計年度末に比べ0百万円減少し、自己資本比率は75.9%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,513百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には14,554百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

営業活動の結果得られた資金は5,233百万円(前年同期は2,576百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益546百万円および減価償却費2,642百万円による増加と、未払金の減少額858百万円および法人税等の支払額260百万円による減少であります。

＜投資活動によるキャッシュ・フロー＞

投資活動の結果得られた資金は376百万円(前年同期は3,745百万円の支出)となりました。これは主に、投資有価証券の売却及び償還による収入2,151百万円による増加と、定期預金の預入による支出1,197百万円および有形固定資産の取得による支出1,071百万円による減少であります。

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

財務活動の結果使用した資金は4,475百万円(前年同期は1,716百万円の支出)となりました。これは主に、短期借入金の純減少額3,500百万円および配当金の支払額719百万円による減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年7月30日に公表いたしました通期の連結業績予想は変更しておりません。